



第104回 中央教育審議会生涯学習分科会

2019年9月9日(月) 14:00-16:30



kuriya

一般社団法人kuriya 代表 海老原周子

Web:kuriya.co Mail:contact@kuriya.co

本日の流れ

- ① 団体紹介
- ② 背景：外国籍等の若者の状況
- ③ 事業紹介・事例1：社会とつながる
- ④ 事業紹介・事例2：社会にはたらきかける
- ⑤ 社会包摂に向けた社会教育のあり方・強み

団体紹介

たくさんの可能性を持つ外国ルーツの若者が輝ける社会へ

対象：16歳～26歳の外国籍等の若者

設立：2009年より活動開始、2016年に法人化

活動内容：①多文化居場所作り ②多文化キャリア教育 ③政策提言

活動実績

参加者：約300名（中国、フィリピン、ネパール、ミャンマー、タイ、インドネシア、ブラジル、日本など）

実施地域：東京を中心に、神戸、茨城、愛知の定時制高校、ブラジル人学校、ネパール人学校などで実施

代表略歴

慶應義塾大学卒業後、(独)国際交流基金・国連(IOM国際移住機関)で勤務。2009年に外国籍の中高生と地域とをつなぐ多文化理解ワークショップを立ち上げた事をきっかけとして、2016年に一般社団法人kuriyaを設立。外国籍等の高校生のキャリア育成に着手し、定時制高校での部活動をつうじた居場所づくりを通して、中退防止やキャリア支援に取り組んできた。また、多文化理解教育として、映像や写真を通じた外国籍等の子どもや高校生の表現活動も行なう。東京を中心に、これまで100回のワークショップを実施。

団体紹介 | 活動沿革

行政連携

2008年－2011年 (独)国際交流基金先駆的・創造的事業

2012年－2013年 新宿区協働事業

2016年－2017年 東京都・アーツカウンシル東京 アートポイント計画事業

企業連携

2013年 JTBグループ CSR事業「杜の賑わい」「地球いきいきプロジェクト」

2013－2016年 アサヒビール株式会社 CSR事業 Asahi Art Festival採択

2015年 エヌエヌ生命 CSR事業「未来の社長」賞採択

助成事業

2011年 公益財団法人日本教育公務員弘済会「子ども国際交流活動」助成事業

2012年 公益財団法人麒麟福祉財団「麒麟・子ども・力」応援助成事業

2013年 子ども夢基金「子どもの体験・読書活動」助成事業採択

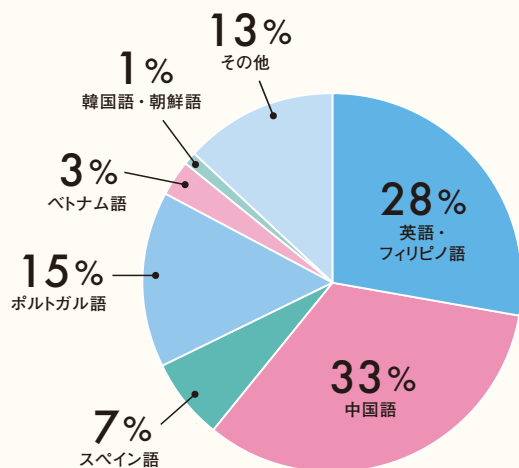
2015年 東京都 芸術文化による社会支援助成事業

2016年 トヨタ財団 国際助成事業

背景 | 日本人と共に育つ外国人の若者たち

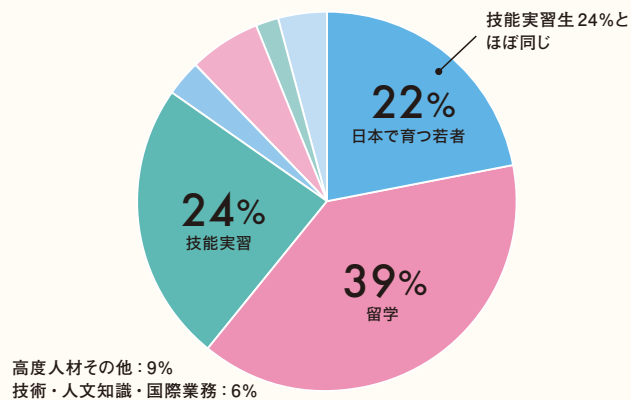
- ・東京の新成人の8人に1人。英語やアジアの言語が出来る。
- ・16歳～26歳で見ると、日本で育つ外国籍の若者は、技能実習生と同じくらいいる。
- ・未来の納税者、子どもを産む世代 → これから伸びる人口・社会保障の担い手にも

言語の力



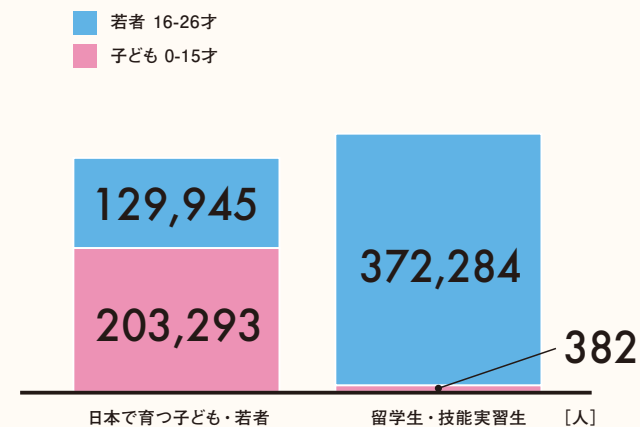
定時制高校の生徒たち

若者16～26才



技能実習生24%とほぼ同じ

子ども・若者



技能実習生 + 留学生とほぼ同じ

※2017年日本語指導が必要な外国籍・日本国籍の児童生徒のうち、定時制高校生徒の母語別状況を元に作成
 ※日本で育つ若者 = 身分に基づき在留する者(定住者、永住者、日本人の配偶者等) + 家族滞在として算出

背景 | 日本人と共に育つ外国人の若者たち

可能性があるのに育たない

→ 高い高校中退率、卒業後の非正規雇用率

高校中退

日本人の平均の7倍

非正規雇用

日本人の平均の9倍

高校中退者や、高卒で来日した若者の受け皿がない



事業紹介

1. After School 定時制高校での居場所づくり

- ・2015年9月～現在
- ・週1回～3回の放課後部活動として実施
- ・留学生、大学生との多文化交流



2. Out of School 実践型インターンシップ

- ・2017年4月～現在
- ・3ヶ月から4ヶ月を1タームとし、週1回参加
- ・団体内でのインターンとしてプロジェクトに携わる



3. 政策提言

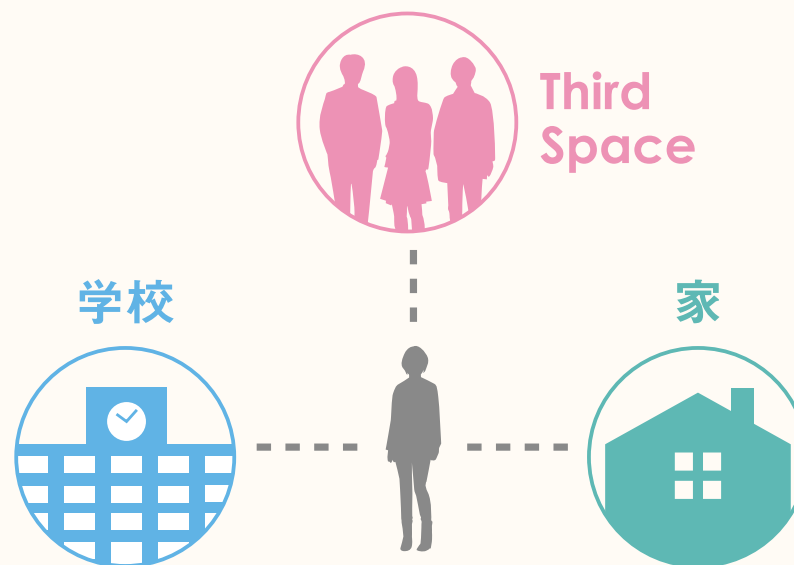
- ・高校中退や進路の調査を提案 → 高校中退率や非正規雇用の高さが明らかに
- ・高校生のための包括支援体制整備を提案 → 補助事業の一環として実施
- ・在留資格「家族滞在」の資格切替の要件緩和を提案 → 一定要件のもと、切替可能に

WHY

1. Third Spaceの必要性 → 高校中退や高卒で来日した若者が学べる場がない
2. ライフスキルの習得 → 学習のみならず、困難を乗り越える力が必要
3. 社会とつながる機会 → 多様な人と出会い、社会からの孤立を予防

WHAT

- 目的：様々な人とのつながりや体験を通じてライフスキルを提供する
- 対象：高校生、高校中退者、高卒で来日した20代の若者
- 内容：インターンとしてプロジェクト運営やリサーチなどをサポート
- 仕組み：多くの若者がアルバイトで自らの生活費を負担 → 活動支援補助



事例 1 | 社会とつながる

期間：2018年4月～8月

場所：SHIBAURA HOUSE、東京都美術館

内容：美術館で開催された展覧会「TURNフェス」で、
多文化・多様性を考えるワークショップをツアー形式で実施



事例 1 | 社会とつながる

企画

- ・アーティストと共にワークショップを体験
- ・ワークショップの対象者や実施会場を想定
- ・ワークショップ内容を考え、プランを作る

準備

- ・ボランティアへのオリエンテーション
- ・資料の作成・翻訳
- ・スタッフの役割分担

実施

- ・ワークショップ参加者への説明
- ・ワークショップの司会、進行
- ・ボランティアへの指示

振り返り

- ・実施内容の良かったところ、改善点
- ・参加者やボランティアなど関係者への対応
- ・自らの役割を達成できたか

5つの学び

- ・想像する力
- ・計画する力
- ・提案する力
- ・交渉する力
- ・まとめる力

5つの体験

- ・人前で話す
- ・タイムマネジメント
- ・チームで動く
- ・柔軟に対応する
- ・客観的にみつめる

事例 2 | 社会にはたらきかける

期間：2018年10月～12月

場所：SHIBAURA HOUSE

内容：自らの体験をもとに高校生や教員に役立つガイダンスを作成する



Phase 1：自らを知る・行動する



Phase 2：社会にはたらきかける

事例 2 | 社会にはたらきかける

Phase 1: 自らを知る・行動する

自らの強み・弱みを知る
Life Mapping



自らの持つリソースを知る
Resource Mapping



自らの課題について考える
Action Planning

強みやリソースを活かして
課題解決ができるという自信



参加者がつくった
「Map」の一例

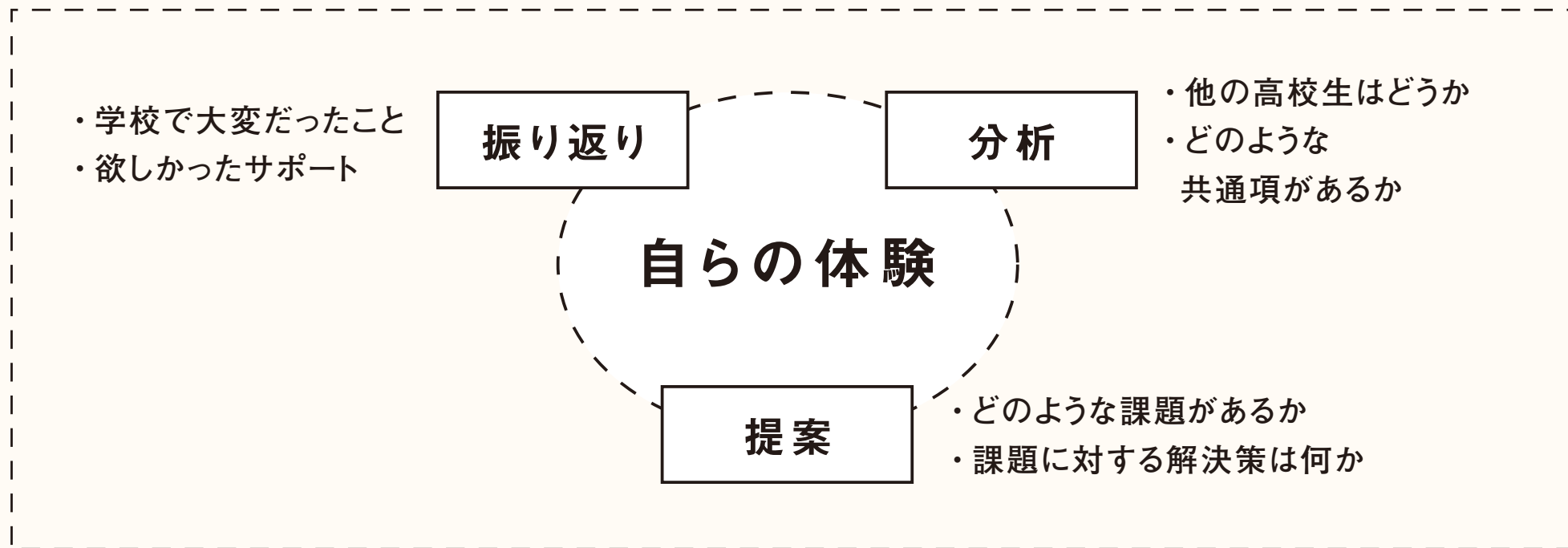
Outcomes

- a big community
- a space for foreign students to learn more Japanese and get help for school works

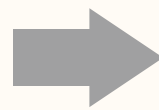


事例 2 | 社会にはたらきかける

Phase 2: 社会にはたらきかける



自分の経験が
役立つという実感



自分にも出来ること
があるという自信

社会的包摂に向けた社会教育のあり方

4つのC（包括的な視点）



Accessibility 参加への仕組み



社会とつながり、困難を乗り越える力を身につけ、
安心して暮らすことが出来る状態へ



社会的包摂に向けた社会教育の課題

人材

- ・担い手の育成
- ・キャリアとしての確立

場

- ・サードスペースの確保
- ・既存の施設の活用

連携

- ・福祉や法律など専門的な支援との連携
- ・学校などの教育機関との連携

認識

- ・学びの場 = 学校のみが学びの場
- ・学びの内容 = 学科などの勉強